

# 市長が行く

茂原市長

田 中 豊 彦

No.26

## ローマは一日にしてならず (住みやすい 茂原市を求めて)

今年も「市長と話し合う会」が、11月6日と13日の2日間で行われました。市民の皆様からの様々なご意見やご要望を聴かせていただきましたが、私はそれらの事柄すべてに対応できない茂原市の現状にもどかしい思いをしております。

本納駅周辺の水害の問題、道路の凸凹、橋梁の老朽化、図書館、公民館、市民会館、市民センターの建て替え、まだまだ残っている学校の耐震化、高い国保税、高いゴミ袋…。出来る限り対応し、改善を目指してはおりますが、現在の厳しい財政状況の中では、選択し的を絞らざるを得ません。

これまでに、安全安心という観点から見て、まず医療問題を取り上げ、夜間の二次待機空白日を無くしました。次に、教育の現場にメスを入れ、環境を整えることに尽力してきました。このコラムでも以前に触れたかと思いますが、平成18年度に約817億円あつた茂原市の借金が平成22年度末で約692億円(見込み)に減ってきたことは、給食公社やひめはるの里など、様々な改革をし、努力をしてきた結果だと思います。それでもまだ多い数字ではあります。が…。収支が減る中で、これがどんなに重い数字なのかといえば、1%の金利が上がるだけで、約7億円の利息が発生するということです。中でも、土地開発公社の約

156億円(22年度末見込み)の借金は、県の中でも突出しています。どうしてこれほどまでに膨らんでしまったのか、情けないことに今となつては二束三文の土地しか残つております。現東京都副知事の猪瀬氏が、茂原市が第二の夕張になるとした根拠は、確かにこの辺に起因しているのではないかと思われます。また、いざという時の基金も極端に少なく、災害が突然襲つてきた時の対応が危ぶまれます。

このような中で、より良いサービスを行うことがいかに難しいか、理解していただけたらと思います。「田中が市長に就任しても何も変わらないない」、「具体的な変化が見られない」といった意見を何人の方からいただきました。そういった方たちにとつては、身近な問題の解決が最優先なのでしょう。確かにそれも大切な事と十分分かつてはおりますが、どうか茂原市の現状を見て、市全体のこととも考えていただけたらと思います。少なくとも、様々な問題を聞く耳は持つておられるつもりです。そしてそれに対処したいという思いもあります。

「ローマは一日にしてならず」ではありませんが、理想の茂原市をつくりあげることも、一朝一夕には出来ないのでです。

少しでも住んで良かったと思える“まち”をつくるために、これからも借金を出来るだけ減らしながら、肅々と様々な問題の解決に努めていきたいと思っております。